

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌ビジュアル アーツ	平成11年1月27日	末吉 良任	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-17 (電話) 011-272-2822																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学 園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	音響学科(ヴォーカル専攻)	平成6年文部科学省 告示第八十四号	-																							
学科の目的	音楽・音響業界の動きに則したスキルを身に着け、併せて社会人として教養やマナーの習得。																										
認定年月日	平成26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1848時間	0時間	0時間	1848時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人の内数	14人	0人	1人	5人	6人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、定期演奏会等																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級 条件	出席時数1700時間以上(2年間) 取得単位数 96単位以上。 学費完納。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。 担任による生活指導及び保護者と の連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就 職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 2 人 ■就職希望者数 1 人 ■就職者数 1 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 50 % ■その他 プロモーションデビューになることを目的とした専攻となります。 (平成 29年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 平成29年5月1日時点において、在学者16名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者14名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。 授業料の分納制度等			■中退率 10 %																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制 度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	https://www.visualarts.ac.jp/top/sound/vocal/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実際の現場と同じ業務の手順を身に着ける。スタジオワークがどのように流れていくのかを体験する。日々進化していく機材に対応する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

編成委員会にて協議された項目(授業内容、実習、研修等)につき、会議参加の学科担当者と編成委員が分科会にて再協議し、授業内容の変更と改善に取り組んでいる。編成委員会、職員会議、学科分科会、カリキュラム編成会議を通じて、授業内容の変更手続きを進めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
斉藤 ちづ	特定非営利活動法人コンカリーニョ 理事長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	①
石川千鶴子	ミュージックショップ音楽処 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	③
一條 實	有限会社カメラのカネミチ 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	③
竹内 鴻志	合同会社フロンティアファクトリー	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	③
山崎 五郎	専門学校札幌ビジュアルアーツ 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
端 一仁	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
佐藤 正浩	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
山中 哲也	専門学校札幌ビジュアルアーツ	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数年2回 毎年2月、9月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

第1回	平成25年11月22日	17:40～18:30
第2回	平成26年2月5日	18:00～19:00
第3回	平成26年9月18日	15:00～16:00
第4回	平成27年3月30日	15:00～16:00
第5回	平成27年10月2日	15:00～16:00
第6回	平成28年9月20日	15:00～16:00
第7回	平成29年10月2日	15:00～16:15
第8回	平成30年2月16日	15:00～16:30
第9回	平成30年9月21日	15:00～16:30
第10回	平成31年2月22日	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「挨拶や礼儀といった当たり前のマナーに問題がある。」「話を聞く、連絡をとる等、コミュニケーション力が不足している。」等、実際の現場対応力の向上を学校に求める意見が多い。そのため、「HR業界研究」授業において、働くための初歩的なスキルである、マナーやルールをはじめとした一般常識に係る講義やグループワークの時間を増やしている。定期演奏会開催を通じて、チームとして活動することの有用性とその重要性について学ぶ機会を増やよう努めている。また、「ライブ技術」「パフォーマンス技術」等の実習授業において、業界マネジメントに係る共同制作活動等を行い、音楽業界の舞台を支えるスタッフと、舞台の上で演奏するプレイヤーがお互いの業務について理解しあえるカリキュラムの強化を心がけている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の職業実務に即した実践的、専門的な実習授業。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

札幌の音楽業界で活躍する音響エンジニアであるスタジオカザボニータの高橋卓二氏、グリッドクリエイイト所属の大和田敦司氏、札幌を代表するライブホールSoundLabMoleの音響照明責任者である進藤美香氏が担当する「ライブ技術」授業と定期ライブの開催を通して、音楽ライブの運営に係る音響と舞台に係る実践的な技術等ノウハウを学生が習得できるよう、授業とイベント開催に取り組んでいる。学生に対する評価も、技術面のみならず、ライブ運営全般における貢献度等を総合的に勘案するよう心掛けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ホームルーム業界研究	レコーディングスタジオにおける色々な録音に関するスタジオワーク。	株式会社Asian Dream

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係													
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教員規則教員研修条項に従い、年度内2～3回以上の専門分野に係る研修、および教員個人の指導力向上を目的とするセミナー等を教員が受講することを定めている。専攻分野に係る専門性の継続的な修得と、教員の基本的な指導スキルの保持とレベルアップは必要不可欠と認識し、定期的な研修の受講を義務付けている。また、教員には業界の情報収集等に努め、新しい知識と技術の習得に係わる勉強会やセミナーには積極的に参加する旨勧奨している。													
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 東京文化会館音響エンジニア須田正幸氏とJAB音響エンジニア小林皓二氏による、音響学科教職員を対象とする研修とセミナーを実施した。平成29年5月24日と25日の両日、技術革新に伴うPAエンジニアの仕事の変容、音楽業界の移り変わり等、現在の音響に係る仕事の有り方について情報交換を行うとともに、これからの音楽と音響分野の変化に対応できる人材に必要なスキルとは何かについて意見交換を行った。また、平成29年6月30日には、ビクター系レーベル「フライング・ドッグ」の音楽プロデューサーである野崎圭一氏と、アニメ音楽業界に求められる人材と今後のアニメソング業界について、音響学科教職員と情報の交換を行った。 ②指導力の修得・向上のための研修等 ・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(7月、12月、1月) ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシート的重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る(5月) ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図(5月)													
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 FM北海道AIR-Gの音楽プロデューサーである片山亮輔氏との情報交流会(音楽業界で求められる人材と必要となる知識とスキル等)を平成30年7月に、音楽処(音楽メディア流通)石川千鶴子社長による講義(北海道、特に札幌における音楽シーンの変遷他)等を同年9月に、音楽ビジネスの現状等に係る情報収集を目的とした、音響学科教職員を対象とする研修と勉強会を予定している。 ②指導力の修得・向上のための研修等 ・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修会(7月、12月、1月)													
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係													
(1)学校関係者評価の基本方針 学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する													
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td>1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか</td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td>2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか</td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td>3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか</td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td>4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</td> </tr> <tr> <td>(5)学生支援</td> <td>5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか	(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか	(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか	(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目												
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか												
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか												
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか												
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか												
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか												

(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

音響学科の教育設備に係る質問に応じて、常に教育上の必要性からPC等ソフトウェアの更新等、新しいソフトウェアの導入を心がけている。平成29年4月には音楽クリエイターの多くが近年利用を始めた、新しい音楽編集ソフト StudioOneを導入し、「音楽制作実習」授業を新たに立ち上げた。従来のPC打ち込み系の学生だけでなく、ヴォーカル専攻等クリエイター以外の他専攻の学生にとってもPCによる楽曲制作が身近になるような授業運営に努めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIデザイナー	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
原 大介	ユアンワークス 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員(姉妹校卒業生)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:平成30年11月中)

URL:https://www.visualarts.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SVA_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供方法:ホームページ URL:<https://www.visualarts.ac.jp/top/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1 年 前 期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1 年 前 期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	1 年 前 期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1 年 前 期	34	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	ヴォーカルレッスン	1 年 前 期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1 年 前 期	68	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8	音楽理論	1 年 前 期	34	2			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術9・10	音楽制作	1 年 前 期	68	4			○	○		○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1 年 前 期	34	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1 年 前 期	34	2			○	○			○	
			合計		10科目										476単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	デビューサポート	1年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	1年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3	選択副科	1年後期	32	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術4・5	ヴォーカルレッスン	1年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術6・7	バンドアンサンブル	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8	音楽理論	1年後期	32	2			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術9・10	音楽制作	1年後期	64	4			○	○		○		
	○		作品制作1	セルフプロデュース	1年後期	32	2			○	○			○	
	○		作品制作2	音楽制作実習	1年後期	32	2			○	○			○	
			合計		10科目										448単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2 年 前 期	34	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2 年 前 期	34	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	2 年 前 期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3・4	ヴォーカルレッスン	2 年 前 期	68	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術5・6・7	バンドアンサンブル	2 年 前 期	136	8			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8	副科レッスン	2 年 前 期	34	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術9	音楽理論	2 年 前 期	34	2			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	2 年 前 期	34	2			○	○		○		
	○		作品制作1	楽曲研究	2 年 前 期	34	2			○	○			○	
			合計		9科目										476単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		2学年の学期区分	前期
		2学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(音響学科ヴォーカル専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンタテインメントビジネス論	セルフプロデュース	2年後期	32	2	△		○	○			○	
○			ホームルーム業界研究	ホームルーム業界研究	2年後期	32	2	△		○	○		○	△	○
	○		パフォーマンス技術1・2	ヴォーカルレッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術3・4	ヴォーカルレッスン	2年後期	64	4			○	○			○	
	○		パフォーマンス技術5・6・7	バンドアンサンブル	2年後期	128	8			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術8	副科レッスン	2年後期	32	2			○	○		△	○	
	○		パフォーマンス技術9	音楽理論	2年後期	32	2			○	○		○		
	○		パフォーマンス技術10	音楽制作	2年後期	32	2			○	○		○		
	○		作品制作1	楽曲研究	2年後期	32	2			○	○			○	
			合計		9科目										448単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		2学年の学期区分	後期
		2学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。